

「2018年版中小企業白書」の概要を ご紹介します

「2018年版中小企業白書」では、中小企業の経常利益は過去最高水準、景況感も改善傾向にあるとしながら、業務プロセスの見直しや人材活用面の工夫等、人手不足の現状のなか中小企業の生産性向上に向けた取組について分析しています。本号では、中小企業白書の一部を抜粋してご紹介します。

○景気拡大の恩恵は、着実に中小企業にまで普及しつつある

・中小企業の経常利益は過去最高水準。景況感 も改善傾向にあり、景気拡大の恩恵は着実に 普及しつつある。一方、依然として大企業との 生産性格差は拡大しており、中小企業の生産 性向上が急務となっている。

図1 企業規模別の経常利益

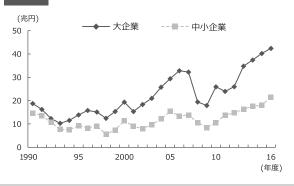
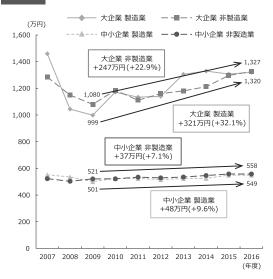


図2 企業規模別労働生産性の推移



○幅広い業種で多能工化・兼任化の取組が進展。生産性向上にも寄与

・人手不足の状況下で、多くの業種で多能工化・兼任化の取組が進展しているが、卸売業・小売業、 サービス業等の非製造業において製造業並の積極的な取組が必要。

図3 業種別に見た、従業員の 多能工化・兼任化の取組状況

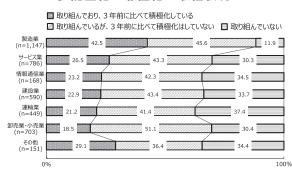
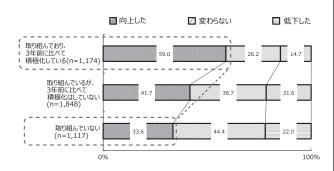


図4 多能工化・兼任化の取組状況別に見た、 3年前と比べた労働生産性

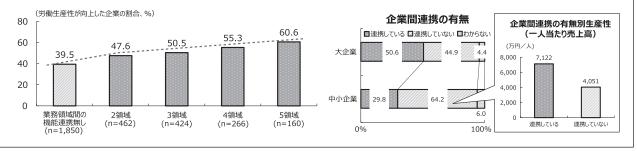


○業務領域や一企業の枠を超えて連携することでITの効果は飛躍的に高まる

・IT導入の効果を高める上では、複数の業務領域間でデータ連携を図ることが重要。さらに、企業間でデータ連携を行うことで一層の生産性向上が期待できる。

図5 連携している業務領域の数と労働生産性 (業務領域の区分: 財務会計/人事労務/顧客管理/在庫管理/受発注)

図6 「攻めのIT」の実施に向けた 企業間連携の状況



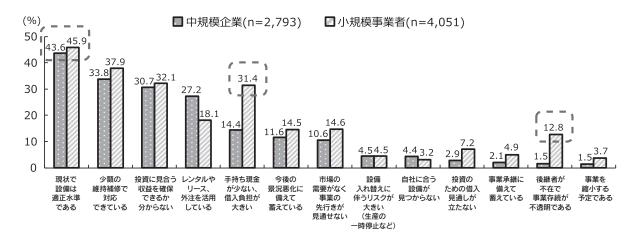
○生産性向上のためには前向きな投資が重要。引き続き投資を促進する必要がある

・中小企業の設備投資は、緩やかな増加傾向。足下では設備老朽化等を背景とした維持・更新投資が中心だが、生産性向上に繋がる前向きな投資をより一層促進していく必要がある。

図7 中小企業の設備投資 図8 中小企業の設備投資目的 (兆円·後方4四半期平均) 4.0 ■2007年度 ■2012年度 ■2017年度 (%) 3.5 70 2.9 57.4 ▮ 3.0 60 53.6 46.7 46 1 46.5 50 41.8 43.2 2.5 40 33.3 30 2.0 20 10 0 製(商)品・サービスの 牛産(販売) 維持更新 省力化合理化 情報化への対応 13 14 15 16 質的向上

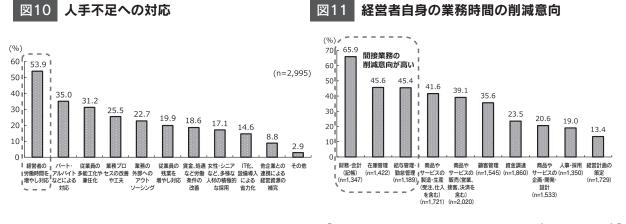
・一方で、設備投資を抑制している理由を調査した結果、「現状で設備は適正水準である」が小規模事業者・中規模企業共に最も多い回答となった。また、小規模事業者と中規模企業を比べた場合、「手持ち現金が少ない、借入負担が大きい」、「後継者が不在で事業存続が不透明である」とする割合は小規模事業者の方が特に高くなった。

図9 設備投資を抑制している理由



○小規模事業者では経営者に業務が集中。IT導人等による経営者の業務効率化が急務

・人手不足を背景に、小規模事業者では経営者に業務が集中。業務の見直しやIT利活用等を進めることを通じて、間接業務の業務負担を軽減し、経営者の業務効率化を進めることが急務の課題と言える。



[出典:2018年版中小企業白書概要(中小企業庁)]